10/17（木）

個 人 型　**研究グループ**（富草小学校）

共同研究者　**宮下昭夫**（信州大学 教育学部附属松本地区統括長）

研究分野は、学校経営と教師教育です。幼保小中連携 (接続) を研究テーマとして、子どもの事実と向き合いながら、未来を拓く学校づくりのお手伝いができればと考えています。

テーマ　子どもの思いから問いが生まれ、学びが深まる総合的な学習

防災倉庫見学から生まれた子どもたちの純粋な疑問をスタート地点にし、避難所の生活を再現する体験から、経験することでしか得られない問いが生まれました。学ぶことの楽しさや醍醐味を実感することで連続的な学びを生み出し、未来に生きる子どもたちの生きる力を養いたいと考えています。子どもたちの思いが絡み合い問いが生まれ、子どもたち自身で解決する過程を見守り、学びの深まりを感じられるよう関わりたいと思います。子どもたちの探究的な学び方につながる総合的な学習を目指します。

共同研究者に信州大学附属松本小学校統括長の宮下昭夫先生をお迎えし、富草小学校の実践を通して、子どもの学びの道筋や学びの姿へのご示唆をいただきながら共に研究を進めていきたいと考えています。

10/28（月）

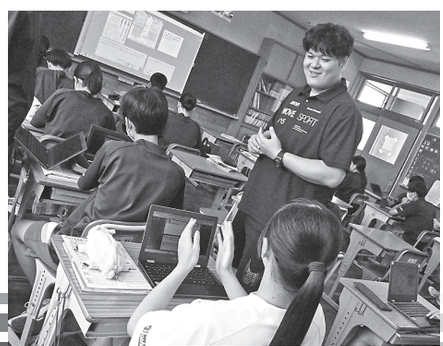
個 人 型　**信濃遊学会**（屋代中学校）

共同研究者　**村瀬公胤**（一般社団法人　麻布研究ラボ 所長）

学校教育コンサルタント、公認心理師。全国の学校で授業研究の指導助言者を務めるとともに、海外で JICA プロジェクト等に参加し、多様性と対話に基づく国内外の教育改革を支援している。

テーマ　遊びながら学ぶ　～本質へ誘う教師の“問い”～

子どもたちが手にしていく「学び」を一つの文化的な道具として捉えたとき、その道具になじむために「遊び」の時間が必要ではないか。では、彼らが自ら道具に親しみ、それを自然に使えるようになるために、教師は何を問えばいいのか。その“問い”にこそ、子どもたちを学びの本質へと誘う、教師としての業が凝縮されてはいないか。



今まで私たちは何を問うてきたか。そして、これから何を問うていくか。

過去を見つめ、新たな道を探る、私たちの集大成となる挑戦です。

本文（ブックレット vol.135）.indd　2　2024/07/30　9:16:28

11/金 1

学　校　型　**佐久市立浅科中学校**

共同研究者　**北澤嘉孝**（信州大学 教育学部附属長野地区統括長）

子どもたちが「多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手」に育っていくために、学校・教師が果たす役割は何かを学校経営の視点から問い直します

テーマ　新たな自分の問いを生み出す探究総合

年間50時間にも及ぶ「探究総合」が、４月の全校オリエンテーションで始まりました。テーマ「新たな自分の問いを生み出す」を生徒と教師が共有し、「『正解のない』問いの追究」のスタートです。①教師の支援のあり方が「教師自身の探究そのもの」②生徒達の疑問、不安そして進捗状況を把握する工夫

③「調べ学習のみ」「何も手につかない」生徒への教師による「対話」の仕方④「ふるさと」で触れ合う「ヒト・モノ・コト」で特に大切にしたいこと⑤柔軟な「探究スパイラル」の回し方⑥最終の「育てたい生徒像」：ウェルビーイングを目指すそのために、中学校段階での学びで大切にしたいこと

「浅科中『探究総合』」の方向性を本格的に探る本年度。１学期に見えてきたものに今後どのように取り組んでいくのか、研究を進めていきます。

11/火 5

個　人　型　**小椋裕太**（高森南小学校）

共同研究者　**谷塚光典**（信州大学 教授）

専門は教育工学・教師教育学。2022年度より信州大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻長。教職ポートフォリオを活用したリフレクション指導について研究している。

テーマ　主体的で対話的な学びが生まれる環境づくり

２年間を共に過ごしてきた６年生30名です。初めは友だちと自分を比べ、できることやできないことを決めつけ、やる前から「できない」「無理」などの悲観的な言葉を発する子もいました。「今日は成長できた」「明日も登校したい」と思える一日を過ごすために、どの子の学びも保障され、子どもが思考を止めない、次のような環境づくりを目指してきました。

・子どもの内から「知りたい」「できるようになりたい」という感情が生まれる
・「聴く」ことから対話が始まる
・子どもの困り感から学びをスタートする

学級という小さな社会の中、子どもも担任も共に学び合える授業とはどのような授業なのかを、子どもたちの学ぶ姿から共に考えていきたいです。

本文（ブックレット vol.135）.indd　3　2024/07/30　9:16:32

11/5（火）

学 校 型 **長野市立長野中学校**

共同研究者 **齋藤博伸**（文部科学省 初等中等教育局 教育課程課教科調査官）

生活科、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間を担当しています。全国各地の授業実践から、学習指導要領のよりよい実施に向けた取組について学ばせていただいています。

テーマ 問いからはじまる探究学習の在り方

本校では開校以来翼プロジェクト（探究基礎＋総合的な学習の時間）を中核として教育課程や授業づくりを行ってきました。生徒が作る問いをもとに探究的な学習をしようと試みてきましたが、「子どもから問いが生まれているのか」「題材や追究の過程は子どもにとって適切だったのか」「教師の支援やアプローチはこれで良いのか」等、指導・支援の在り方を問い直す声が職員からあがってきました。そこで、今年度は文部科学省の齋藤博伸調査官にご支援をいただき、生徒がワクワクしながら探究的な学びを深めていくにはどうすれば良いのか、生徒とともに教師も試行錯誤をしているところです。総合的な学習の時間の構想について、問いからはじまる探究学習の在り方について、一緒に考えませんか？

11/6（水）

学 校 型 **長野市立松代小学校**

共同研究者 **岩川直樹**（埼玉大学 教授）

教育の臨床的な研究をしてきている。教育現場で出会った子どもや教師の姿、教室の出来事や教師の語りにふれながら、そこに起きていることの意味のゆたかさを分かち合うことば（概念）を探ろうとする探究。あらゆる問題を個人の内側に閉じこめる言説が広がる社会のなかで、人と人とのふれあいと分かち合いに教育の根源的な意味があることに立ち返るような時間を共有したいと考えている。

テーマ 「対話」「寄り添い」をとおした、主体的・協働的な学びの実現

本校では、主体的・協働的な学びを目指すために、「対話」「寄り添い」を高める授業づくりを昨年度から進めてきました。今年度は、放課後に「siro カフェ」を行い、子どもたちの姿を語り合ってきました。子どもたちの姿を語り合う中で「問い」について考えてきました。そして、子どもたちから生まれる「問い」を教師が見つけ、それを学習につなげて広げていくためには、本校のテーマである「対話」と「寄り添い」がキーワードになっていくのではないかと考えました。子どもたちが、どのように「ひと」「もの」「こと」とつながり、どのような「問い」が生まれるのかを追っていき、主体的で協働的な学びの実現について考えます。

本文（ブックレット vol.135）.indd 4 2024/07/30 9:16:34

11/8（金）

学　校　型　**駒ヶ根市立赤穂南小学校**

共同研究者　**宮島　新**（長野市立城山小学校 教諭）

生活科・総合を中心に、授業づくりや学級づくりについて考えてきました。現在も、実践を通して子どもの学びや教師の学びについて問い続ける日々です。

テーマ　〈対話〉をしながら学ぶ子ども・教師
～子どもの生活に根ざした学びの創造～

２年２組（授業公開学級）は、子どもたち一人一人の「やりたい」が溢れている。教室を飛び交うカエルの後をぴょんぴょんと追いかける子ども。大雨の自然園に身を投げ出しずぶ濡れになる子ども。息絶えたカブトの幼虫をずっとかごに入れて持ち運ぶ子ども。握りしめたイモリに「あのね」と語りかける子ども・・・。思い思いに活動する子どもの姿に、この先どのように収拾をつけていったら良いのか悩む教師。目の前のこの子の想いに寄り添い、共に居られる教師でありたいと願えば願うほど深まる迷い。でも、だからこそ宮脇（担任）は、日々内省し子どもの姿と自己の有り様を綴り続けている。伸び伸びと生きる子どもの姿、子どもが感じている〈こと〉を感じようと奮闘する（右往左往する）教師の姿。是非共感ください。

11/8（金）

学　校　型　**長野市立三本柳小学校**

共同研究者　**岡野　昇**（三重大学 教授・附属教職支援センター長）

博士（心理学）。学校現場の校内研修、園内研修及び教職員研修会等に多数関与し、教師と協同して、学校教育における「学び」と「からだそだて」を中核に据えた学校改革を進めています。

テーマ　自ら学び続ける力を育むための授業づくりのあり方

昨年度より、三本柳小学校では、「自ら学び続ける力を育むための授業づくりのあり方」を具体の姿とするために、「子どもを変える」のではなく、「子どもの学ぶ環境を変える」という意識をもって授業づくりをはじめようと考えました。まず、子どもが安心して考えることのできる環境づくりや子どもが友だちの考えを「知りたい」「聴きたい」と思えるような環境づくりに取り組みはじめています。また、子どもが思考する時間を長く確保し、思考し続けることができる授業の工夫にも取り組んでいます。共同研究者に三重大学岡野昇教授をお迎えし、三本柳小学校の授業実践を通して、アイディアをいただきながら研究を進めていきたいと考えています。

本文（ブックレット vol.135）.indd　5　2024/07/30　9:16:39

11/11（月）

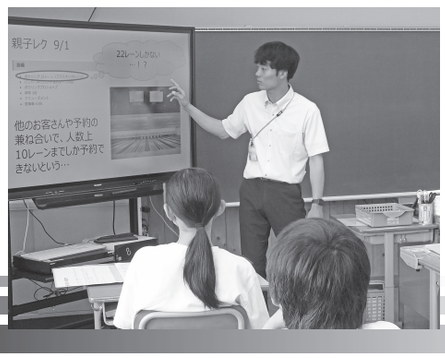
個 人 型　**小口敬史**（泰阜中学校）

共同研究者　**永田潤一郎**（文教大学 教授）

中・高校に17年間勤務後、文部科学省で教科調査官として平成20年に告示された学習指導要領の改訂等を担当。現在は文教大学で教員養成に携わりながら、教育課程や学習指導法の研究に取り組んでいる。

テーマ　発問をもとにした生徒と教師の数学的活動のあり方はどうあったらいいか

教員となり３年目を迎えた私は、授業の構想を立てていく中で、「生徒の主体性を引き出すためには」「生徒の習熟度の差を感じさせない授業のあり方は」などいくつもの悩みを抱えてきました。そんな時、「生徒の活動は、教師の活動のもとにある」という言葉に出会い、”数学的活動”に対する考え方が変わりました。このことから学びを生徒に任せるためには、日々の教師の問いかけや場面作りが不可欠であり、今の自分に必要な指導力だと感じています。特に学力差のあるクラスでの一斉指導において、すべての生徒が満足感の得られる授業を目指しています。発問や１対１による話し合いなどを通して、数学的活動のあり方を研究しています。



11/14（木）

学 校 型　**安曇野市立豊科東小学校**

共同研究者　**楠見友輔**（信州大学 講師）

博士（教育学）。主著『子どもの学習を問い直す』（東京大学出版会）。連載〈新しい時代の教育を創造する〉『教育と医学』（慶應義塾大学出版会）。どの子どもも排除しない教育論や学習論について考えています。趣味は木工の教材づくり。

テーマ　対話を通して、学びを深めていく子どもを目指して

本校では、「主体的・対話的で深い学び」を目指して、２年前より「対話」を大切にした授業づくりを日々心がけています。教師一人ひとりが、「対話」に対する考えをもちながら取り組んでいます。子どもたちの対話を大切にするため、今年度は知識を教える教師から脱却することで、「一斉指導からの脱却」に力を入れています。

一斉指導からの脱却には、「子どもに委ねる」ことが大切になります。そこで、本校では日常の授業の様子を動画で記録し、それを職員で見合って意見交換を積み重ねています。授業中には気づかなかった子どものつぶやきや表情から、子どもの学びについて考え、子ども観を養っています。

今回の授業公開は全クラス公開です。担任それぞれが考える「対話」や子ども観について、授業をもとに一緒に考えられたらと思います。

本文（ブックレット vol.135）.indd　6　2024/07/30　9:16:42

11/15（金）

学　校　型　**伊那市立伊那小学校**

共同研究者　**苫野一徳（熊本大学大学院 准教授）**

哲学者・教育学者。著書に『どのような教育が「よい」教育か』『勉強するのは何のため？』『教育の力』『はじめての哲学的思考』『「学校」をつくり直す』『学問としての教育学』など多数。

テーマ

内から育つ
～対象と関わり続けながら、学びを深めていく子ども～

「大丈夫、僕が着せるよ」とクリスター（馬）の服を着せた子ども。なぜその子は「大丈夫」と自ら服を着せにいったのであろうか。そこには、その子がこれまでクリスターに働きかけていったり、クリスターからの働きかえしを受けとめていったりしながら、クリスターと関わり続けていったあゆみがありました。

今年度、子どもは、どのように対象と関わり続けていくのか、また、子どもは、対象と関わり続けていくことで、どのように学びを深め、何を内に育んでいくのか、さらに、対象と関わり続ける子どもの内を感じた教師は、子どもと共にどうあったのか、ということを視点に研究を進め、子どもの内に学んでいきたいと思います。

オンラインにて共同研究についてのコメントをいただく予定です。

11/15（金）

個　人　型　**藤原慎吾（千代小学校）**

共同研究者　**森下　孟（信州大学 准教授）**

１人１台端末やテレビ会議などの ICT 機器を活用した協働的な学び、学校間での遠隔協働学習を実現するためのシステム・指導法の開発・実践に従事。教員の ICT 活用指導力の育成に取り組んでいる。

テーマ

「子どもが夢中になる授業」
～一人ひとりに合った授業スタイルを目指して～

「子どもが夢中になる授業」とはどんな授業なのでしょうか。これまで行ってきた授業を振り返ったとき、個の学び方や考えを深めていく過程には違いがあるのではないかと考えるようになりました。そこで「子どもが夢中になる姿と学びを結びつけてとらえる」「学びが深まる要素を考える」ことに視点を置き、ALACT（アラクト）モデルを取り入れた学習を進めています。子どもがこれまでの学習を想起し、「あっ、やれそう」「これならできそう」とちょっとしたわくわく感の中で課題に取り組む姿が夢中になる授業のヒントとなりました。それを足がかりに、①自分の考えを試す。②必要感をもって個と個が繋がり、考えを共有する。③再び自分に戻って試す。そんな個に寄っていく研究をしていきます。

本文（ブックレット vol.135）.indd　7　2024/07/30　9:16:45

11/19（火）

個 人 型　**上村　亮**（旭ケ丘中学校）

共同研究者　**齊藤忠彦**（信州大学 教授）

公立中学校教諭を経て1999年に信州大学教育学部に着任。2014年から同大学教授。専門は音楽教育学。著書に「新版 中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法」（編著者、教育芸術社、2019年）などがある。

テーマ　子どもたちが「できた！歌えた！」と実感し、表現を追究できる歌唱授業

中学２年生が「サンタルチア」に取り組んだときです。子どもたちは歌い手が自由に音楽表現できるカンツォーネの魅力を感じ、一人ひとりが曲を通して伝えたい思いをどうしたら音楽で表現できるかを考えました。しかし、表現を考えても実際に「歌い表せた」という実感をもつことができず、深く追究するには至りませんでした。

子どもたちが「できた！歌えた！」と実感し、自身の表現の深まりを自覚するためには、客観的に自分の歌声を振り返り、発声の技能向上も必要だと考えています。子どもたちの思考を深めながら、技能を伸ばすには、どのような手立てが有効であるかを研究しています。授業当日、子どもたちは「帰れソレントへ」の一人歌いに挑戦し、それぞれの表現で歌います。

11/19（火）

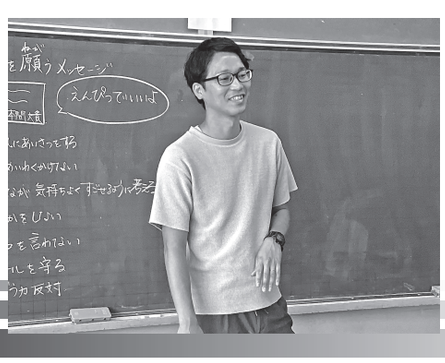
個 人 型　**本間大貴**（豊野西小学校）

共同研究者　**髙柳充利**（信州大学 准教授）

専門：教育哲学。博士（教育学）。信濃教育会教育研究所特任所員。

テーマ　対話が生まれる道徳の授業づくり

対話を「驚きから始まり、探究と思考によって進む会話のこと」と考え、道徳の授業づくりを進めています。対話の中で、子どもの「これはゆずれない」という「こだわりの私」「どうしてもの私」が表出されることで、その思いに友や教師が共感し、さらなる対話が生まれてくるということが事前授業から見えてきました。



そんな子どもの姿に道徳教育の視点から教科横断的にアプローチすることによって、よりよい生き方を探し、よりよい自分について考えようとする子どもの思いに寄り添える学びを実現させたいです。その前提に立って、道徳の授業を各活動の要として、また本実践の集大成として提案できればと考えています。

本文（ブックレット vol.135）.indd　8　2024/07/30　9:16:48

11/21（木）

個　人　型　**髙野直実**（御代田北小学校）

共同研究者　**桐原　礼**（信州大学 准教授）

松本市出身。専門は音楽教育学（教科教育、幼児教育）。テーマは、音楽を通した異文化理解、身体表現や教科横断的な実践、スペインの音楽教育事情など。小学校教科書「音楽のおくりもの」執筆。

テーマ　「教える」から「子どもたちと共に学ぶ」授業への転換

「今日はこれをやろうね」と課題を与え、それをこなすだけの教師主導の授業。自分はちゃんと教えているつもりなのに、子どもの思いや願いを引き出せず、やらされている気分でいっぱいの授業になってしまいました。

そうではなく、子どもたちが生き生きと自分の力で追究していく姿を見たい―。

御代田北小学校で共に６年間歩んできた６年生と一緒に、子どもたちの思いを引き出し、子どもたちが自分たちの力で活動していくためにはどうしたらよいか、子どもたちの主体性を生かすために教師と子どもの関係性はどうあったらよいか、の２点を研究の軸とし、音楽の授業を通して「子どもたちと共に学ぶ」教師のあり方について考えていきます。

11/22（金）

個　人　型　**樋口亜紀子**（和小学校）

共同研究者　**岩川直樹**（埼玉大学 教授）

教育の臨床的な研究をしてきている。教育現場で出会った子どもや教師の姿、教室の出来事や教師の語りにふれながら、そこに起きていることの意味のゆたかさを分かち合うことば（概念）を探ろうとする探究。あらゆる問題を個人の内側に閉じこめる言説が広がる社会のなかで、人と人とのふれあいと分かち合いに教育の根源的な意味があることに立ち返るような時間を共有したいと考えている。

テーマ　わからないからワクワクしちゃう、楽しい授業の作り方

「『わからない』はひとりで探究しても、誰かと探究しても、超ワクワクするんだよね」という５年松組の子どもたち。こうすればわかるかも？という仮説がたてば、がむしゃらに探究し続ける力が松組さんの学びの武器なのです。当日は、お得意の「操作を伴っての探究の場面（算数）」で、自分の考えにこだわりを持って探究し続ける姿を、参観していただくみなさんも一緒に楽しんでいただければと思います。「みんなちがっているからおもしろい」をめざし、隣の友だちと創るフルフラットな学びの場にどうぞお越しください。

本文（ブックレット vol.135）.indd　9　2024/07/30　9:16:51

11/22（金）

学　校　型　**辰野町立辰野西小学校**

共同研究者　**宮野　尚**（信州大学 助教）

学校改革における教師の職能成長について歴史的に研究しています。特に近年は、教師が教師を教える行為の中で、どのような学びを展開しているのかについて関心を抱いています。

テーマ　生き生きと自ら考えを伝え合う認め合う子ども
～教師の主体性が子どもの主体性につながる研究推進から～

子どもたちの「行動」に見える主体性には、“自分らしく”“自分はこうありたい”と思える「存在」としての主体性が根にあります。その根があるからこそ、ねらいや願いをもったり、「頭フル回転」に追究したりすることができます。私たち教師も同じように、教師としての「自分らしさ」「こうありたい（したい）」を明確にもち、個人研究を軸に据えた授業ミーティングによる研究推進・授業実践をすることで、教師の主体性と子どもの主体性がつながっていくと考えています。そして目に見えた子どもの主体性の花がまた私たちの原動力となり、教師も子どもも共に成長していく…そんな子どもと教師の主体性について、６人の授業者の先生方と子どもたちの姿から一緒に考えて見ませんか？

11/22（金）

個　人　型　**伊藤あおい**（塩尻市西小学校）

共同研究者　**山浦貞一**（信州大学教職大学院 特任教授）

道徳教育・学級経営・キャリア教育を中心に実践的研究を行ってきた。現在は、学び続ける個の育成をテーマに下伊那地域の学校で共同研究に携わっている。

テーマ　自分事として深く考え、考えを更新していく過程を楽しむ道徳

道徳の授業をしていく中で、疑問に思っている部分がいくつかありました。「俗にいう良い答えが分かっているから、授業ではすごく良い人だな」「いつもきれいごとでしめているような授業は子どもたちの思いを深めたことにならないよな」かといって「答えはないから好きに考えていいよ」というのも、余計に子どもたちを不自由にしているような…。子どもたちが、たくさんの作用から、自分事として考え続ける授業とはどんなものなのか、少しでも見通しが持てるようにしていきたいです。

そのために、子どもたちが問題意識を持ち、自分の思いを更新し続けることのできる授業づくりになるよう、研究を進めていきます。

本文（ブックレット vol.135）.indd　10　2024/07/30　9:16:53

11/22（金）

個人型　**秋山佳樹**（川田小学校）

共同研究者　**佐藤和紀**（信州大学 准教授）

1980年長野県軽井沢町出身。2006年東京都公立小学校・教諭を経て、2017年常葉大学教育学部・専任講師を経て、2020年信州大学教育学部、2023年独立行政法人教職員支援機構・フェロー。東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程・修了、博士（情報科学）

テーマ　子どものレジリエンスを育成する授業づくり
―地域教材を題材とした探究的な学習を通して―

子どもたちには将来、夢や目標の実現に向けて失敗してもチャレンジし続ける人材であってほしいと願っています。そのために非認知能力の一つである「レジリエンス（困難を乗り越える力）」を育むことが欠かせません。レジリエンスの育成には他者との関わりの中で課題解決していく経験が必要であると考えます。ICT の活用により一人ひとりの考え方や進度を容易に可視化し共有できる環境の中で、探究的な学習に取り組みます。題材は、学区にある廃線になった旧信濃川田駅です。長野空襲とのつながりや地域の方々の思いに触れながら、旧信濃川田駅の今後について考えていきます。

11/22（金）

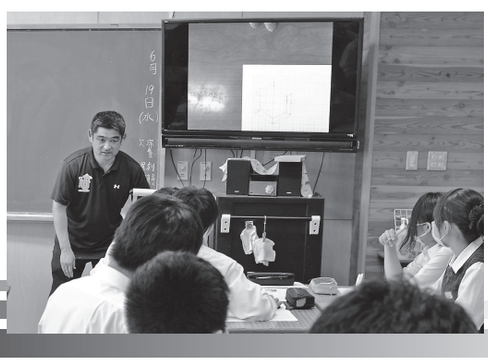
個人型　**飯島政昭**（裾花中学校）

共同研究者　**新井　仁**（都留文科大学 教授）

長野県内で教鞭を執った後、国立教育政策研究所学力調査官、長野県総合教育センター主任指導主事を経て、都留文科大学着任。算数・数学教育における批判的思考の役割に関する研究に取り組んでいる。

テーマ　生徒自ら概念を獲得していく数学の授業づくり

数学の学習には、「学んだ知識や技能を使って問題を解く場合」と「試行錯誤しながら問題解決に取り組む過程で新たな数学を学ぶ場合」があると考えられます。基礎的基本的事項を先に習得し、終盤にこれを用いて応用問題を解くような流れが前者です。一方、解決すべき問題が存在し、その問題解決に取り組みながら、学習者にとっての新たな数学、レベルの高い数学を学び獲得していくような流れが後者です。本研究では、後者の学習活動について実践発表させていただきます。中学校３年の生徒たちが、知恵を絞りながら問題解決に挑み、その過程で新しい数学的な概念を獲得していく授業づくりを進めています。



本文（ブックレット vol.135）.indd　11　2024/07/30　9:16:55

11/26（火）

学　校　型　**佐久市立浅間中学校**

共同研究者　**藤森裕治**（文教大学 教授）

佐久市出身。都立高校教員、信州大学教育学部を経て現職。専門は国語科教育、幼児教育、日本民俗学。Ｅテレ「現代の国語」、NHK ラジオ第２「文学国語」などに出演中。2023年度より佐久市いじめ問題対策連絡協議会会長を務める。

テーマ　『浅間探究学校』への挑戦 ～３学年「卒業探究」の実践を通して～

本校では昨年度より、①教科学習の探究化②総合的な学習の時間の探究化③家庭学習の探究化を柱に据え、実践を積み重ねています。生徒がワクワク感を抱きながら楽しく探究を進めていくにはどうすればよいのかについて、教師も悩みながら試行錯誤しているところです。当日は、今年度からカリキュラム開発に挑戦している「卒業探究」における生徒の姿を公開します。中学校３年生がこれまでの探究の成果を「アウトプット」しますので、参観者の皆様からの「フィードバック」をお願いします。地域の方や先生方との「対話」から、新たな問いを見いだす生徒の姿をご覧ください。対話に参加していただく形式の授業となります。多くの先生方の参加をお待ちしています。

11/27（金）

個　人　型　**丑澤颯斗**（塩崎小学校）

共同研究者　**岩田　靖**（信州大学 教授）

体育科教育学を専攻しており、特に体育授業の学習内容・教材構成について研究しています。主な著書には『体育の教材を創る』『ボール運動の教材を創る』などがあります。

テーマ　すべての子ども達が夢中になって、心ゆくまで運動に親しむ体育学習

一人ひとりが自分の判断に自信をもつことで、より意欲的になり、夢中になって運動に取り組めると捉えています。事前授業として「キャッチセットアタックプレルボール」を行いました。子ども達がボール運動の状況に応じた課題認識、自分や仲間の実態認識、どうすればできるようになるかの方法認識をもてるようにすることがテーマの実現に向けて大事だと感じました。一人ひとりがより自信をもてるようになるために、意図的・選択的な判断に基づく協同的なプレーができるボール運動を子ども達と目指します。共同研究者の岩田靖先生をはじめ、本校の体育研究部会の先生方、長野上水内体育同好会の先生方を中心に多くの先生方と共に、研究を進めています。

本文（ブックレット vol.135）.indd　12　2024/07/30　9:16:59

11/29（金）

学　校　型　**佐久城山小学校**

共同研究者　**伏木久始**（信州大学 教授）

専門は教育方法学・教師教育学。カリキュラム研究で博士号取得。心理職を経て小・中・高の教諭時代に教科横断的な学習の実践研究に取り組む。2003年度より信州大学へ転任し、2012年より現職。

テーマ　子どもが選ぶ　学校が変わる

40分授業午前５時間制で生み出した20分の学校裁量の時間。そこでは子どもが自分の興味・関心のあることを追求できる「私の時間」を実施しています。学びの主体は100% 子どもに委ねられています。

お菓子を作る、手話を学ぶ、長い時間飛ぶ紙飛行機を作る、外国語を学ぶ、アイドルを目指して歌の練習をする、タイピングを極める等、多様な活動が展開されています。真剣に自分の追求を楽しむ子どもたちと、「学びになっているだろうか」「そもそも学びとは何か」「大人はそこにどう居ればよいか」と戸惑いながらも子どもを理解しようと務める教師たち。自分に合った学びを見出す経験が子どもを変え、その姿が伴走する教師の教育観も変えつつあります。

11/29（金）

個　人　型　**和田聖国**（古牧小学校）

共同研究者　**新井　仁**（都留文科大学 教授）

長野県内で教鞭を執った後、国立教育政策研究所学力調査官、長野県総合教育センター主任指導主事を経て、都留文科大学着任。算数・数学教育における批判的思考の役割に関する研究に取り組んでいる。

テーマ　子ども自ら概念を獲得していく算数の授業づくり

算数・数学の学習の流れには、２つの“型”があると考えます。１つは、基礎基本の技能や知識を先に学習して、学習のまとめとしてこれを使って応用問題を解くような流れです。もう１つは、先に解決したいと子どもが願う問題があり、その問題解決に取り組む中で、子どもたちにとっての新たな算数・数学の概念と出会い、それを学び獲得していく流れです。

本研究ではその後者、すなわち、子ども自らが算数の概念を獲得していく算数の授業づくりを目指し、対象学年を小学校低学年において取り組みます。小学校低学年の子どもたちが素朴に解決したいと願う問題と出会い、その解決を通してどのような思考力・判断力・表現力等を身に付けるのかを中心に研究し、実践発表させていただきます。

本文（ブックレット vol.135）.indd　13　2024/07/30　9:17:00